

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゆ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゆ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



マパール 高次元の持続可能性推進

最新テクノロジー！自家発電エネルギー！気候に優しいモビリティ！
エネルギーと環境管理重視！アーレン本社だけで400万ユーロ投資！
2025年までに自社製品のエネルギー関連CO2排出量40%削減！

業務プロセス全てに「持続可能性」推進

マパールは、顧客にメリットをもたらす“革新工具”の開発、製造、供給を展開する一方、「エネルギー」や「環境管理」についても高い意識レベルで重視している。

その目的は、グループすべての拠点の業務プロセスをより持続可能なものにすることに主眼をおいている。

同社は近年、一連のグループ施策において「エネルギー」や「環境管理」を推進し、積極的に取り組んできた。

他のプロジェクトもその実現の準備が整っている。

同社は、2025年までに自社製品のエネルギー関連のCO₂排出量を40%(2015年比)削減を掲げている。

マパールは持続可能性に正面から、さまざまなレベルで取り組んでいる。

同社エネルギー管理チームは、社内の資源効率とエネルギー節約のプロセスに取り組んでいる。

また、その一方で同社の研究開発エンジニアは、持続可能性の問題に取り組む革新的なツールやチャックで顧客をサポートすることに傾注する。

Smart Technology エネルギー削減

同社が目指すエネルギーおよび環境管理のキーポイントの1つは、インテリジェントなテクノロジーとシステムの使用にも見ることができる。

建物の建設や更新、生産設備の改修などの投資の場合、環境側面に沿ったプロジェクトの計画と導入を行う。

マパールの専門家は数年をかけて、環境に有害な塩浴(えんろく)による工具の硬化に代わるレーザー硬化システムを開発した。このシステムは数か月前に正常に稼働している。

写真が中空シャクテーパー加工用に新開発したレーザー焼入れシステム



だ。同システムは環境に有害な塩浴硬化に代わるものであり、同システムを用いることで必要なエネルギーを大幅に削減する。

電気を生産

一方、同社はインドの関連子会社で必要な電力の約3分の1を自社の太陽光発電システムを通じて生成している。

同社は、インドのコインバトールに新たな子会社を設立する際も持続可能性に全面的に焦点を当てた。

同発電所は、電力需要の約3分の1を自社の太陽光発電システムを使用して生成しており、その他の気候変動対策も実施している。



また、オーストラリアのバララットにある関連子会社では昨年以來、電力を完全に自給自足している。

英国、ポーランド、イタリアにあるマパールの工場も独自の太陽光発電システムが稼働している。

一方、アルテンシュタットの超硬ソリッド工具のセンター・オブ・コンピテンスでは、施設での工具製造と建物の空調に独自の井戸水冷却技術を使用し、CO₂排出量を削減している。

グリーン電力 グリーン熱

アーレンにある同社の本社工場は、環境に優しいエネルギー供給を目指し、一貫して取り組んでいる。高効率のコージェネレーションユニットが長年稼働していたが今年の春に、より効率的な新しいユニットに置き換えられた。その結果、マパールは毎年約80トンのCO₂を節約する。

さらに、同社は新しいホールの機械からの廃熱を建物の暖房に利用している。

アーレン工場の別のホールには、間もなく熱回収システムと高性能ヒートポンプが導入され、暖房エネルギーの持続可能な利用がさらに改善される予定だ。

2021年以來、マパールはアーレンの本社工場とドイツの8つの関連子会社で、電力需要を満たすために環境に優しい方法で生産された電力のみを購入してきた。

アーレンの主力工場は間もなく、この製品の大部分を自社で生産する予定だ。いくつかのホールの屋根への太陽光発電システムの設置は、すでに計画の最終段階に入っている。これにより、マパールは自社の需要を満たすために約50万kW時の電力を生産できるようになる。

気候に優しいモビリティ

マパールは、モビリティ分野におけるグリーンな未来にも投資している。

同社の車両は電気自動車やハイブリッド車で構成されている。アーレン工場の訪問者用駐車場には6つの充電ステーションがあり、訪問者や社用車の充電設備として利用できる。

現在、ドイツのすべての拠点には独自の充電ステーションが設置されている。これをさらに拡張する計画もある。



アーレンでは、従業員向けの最初の充電ポイントの設置と、駐車場へのソーラーカーポートの設置がすでに進行している。

中期的には、同社はこの方法でさらに50万kW/時の発電、つまり合計約100万kW/時の発電を目指している。これらアーレンのサイトだけで持続可能なプロジェクトへの投資は合計約400万ユーロに達している。

これには、会社用自転車の提供、「ドイツチケット」の補助、リモート勤務のオプションなど、従業員の環境に優しい移動手段が含まれる。

照明をLEDテクノロジーに変換し、製品パッケージをリサイクル材料に切り替えることも、マパールの持続可能性コンセプトの一部になっている。

持続可能な企業文化へ 同社の明確な取り組み

(マパールにとって環境と気候に対する取り組みは、非常に重要な問題とマパールグループの社長であるヨッヘン・クレス博士は考えている。

「私たちに将来の世代に対する義務があり、家族経営としてこれが特に重要であると考えています」と語る。

すでにマパールは、明確で具体的な目標を設定している。これらを完全に達成するにはまだ長い道のり要すかもしれない。

「しかし、私たちはこれらの目標に向けて全力で取り組んでいます」とクレス氏は強調する。

※資料提供：マパール)